

第10回耐震設計分科会 議事録

1. 開催日時：平成17年6月13日(月) 10:00～12:30

2. 開催場所：航空会館702, 703会議室

3. 出席者(順不同, 敬称略)

- 出席委員：柴田分科会長(東京大学名誉教授), 原副分科会長(東京理科大学), 久保副分科会長(東京大学), 白井分科会幹事(関西電力), 中川(日立), 平山(東芝), 浅野(四国電力), 遠藤(日本原電), 金谷(関西電力), 清原(九州電力), 久野(中部電力), 柴田(北陸電力), 野田(東京電力), 土方(東京電力), 平井(電源開発), 広谷(東北電力), 大宮(竹中工務店), 白浜(大林組), 佐藤(鹿島建設), 武田(清水建設), 村角(大成建設), 市橋(原子力発電技術機構), 瓜生(核燃料サイクル開発機構), 秋野, 北森(法政大学), 櫻井(電中研), 関村(東京大学), 田治見(日本大学名誉教授), 濱田(早稲田大学)(29名)
- 代理出席委員：佐藤(三菱重工業・金田代理), 橋本(中国電力・熊谷代理), 佐伯(北海道電力・藤田) (3名)
- 説明者：尾崎・片山(関西電力) (2名)
- オブザーバ：島村・名倉(内閣府), 植田(日本原電), 小江・堀江(関西電力), 八代(東京電力), 福島・丹羽(鹿島建設), 石崎(竹中工務店), 森山(大成建設), 反田(原子力安全基盤機構) (11名)
- 欠席委員：三木(富士電機システムズ), 西(電中研), 青山(東京大学名誉教授), 北山(首都大学東京), 衣笠(東京工業大学), 木村(東京工業大), 瀧瀬(東京大学), 藤田隆史(東京大学), 藤田聡(東京電機大), 翠川(東京工業大) (10名)
- 事務局：浅井・荒木・福原(日本電気協会) (3名)

4. 配付資料

- 資料 No.10-1 第9回耐震設計分科会 議事録(案)
- 資料 No.10-2 耐震設計分科会及び各検討会委員名簿(案)
- 資料 No.10-3-1 JEAG4618 鋼板コンクリート構造耐震設計技術指針 建物・構築物編(案)
公衆審査意見対応(案)
- 資料 No.10-3-2 JEAG4618 鋼板コンクリート構造耐震設計技術指針 建物・構築物編(案)
- 資料 No.10-4-1 原子力発電所耐震設計技術指針 JEAG4601 改定について
- 資料 No.10-4-2 原子力発電所耐震設計技術指針 全体目次案(本文) JEAG4601 200X
- 資料 No.10-4-3 原子力発電所耐震設計技術指針(案) JEAG4601 200X
第3章 耐震設計で考慮する地震と地震動(3.2.2 活断層及び3.4 津波水位評価を除く)
- 資料 No.10-4-4 原子力発電所耐震設計技術指針(案) JEAG4601 200X

第 3 章 耐震設計で考慮する地震と地震動(3.2.2 活断層及び
3.4 津波水位評価)

第 4 章 地質・地盤調査

第 5 章 地盤の安定性評価及び土木構造物の耐震設計

資料 No.10-4-5 原子力発電所耐震設計技術指針(案) JEAG4601 200X

第 6 章 建物・構築物の耐震設計

資料 No.10-4-6 原子力発電所耐震設計技術指針(案) JEAG4601 200X

第 7 章 第 7 章 機器・配管系の耐震設計

回覧資料 原子力発電所耐震設計技術指針(案) JEAG4601 200X

第 7 章 機器・配管系の耐震設計 本文・添付

参考資料 - 1 第 17 回～第 18 回原子力規格委員会議事録(案)

参考資料 - 2 原子力発電施設の技術基準改定を受けた学協会規格の活用について

5 . 議事

(1) 会議定足数の確認

事務局より、委員総数 42 名に対し代理出席者を含めて本日の委員出席者数 32 名で、会議開催条件の「委員総数の 2 / 3 以上の出席」を満たしていることの報告があった。また、代理出席者 3 名について、規約に基づき、柴田分科会長より参加了承された。

(2) 前回議事録(案)の確認

事務局より資料 No.10-1 に基づき前回議事録(案)の説明があり、一部誤記訂正の他はコメントなく了承された。

(3) 耐震設計分科会分科会長の選任、副分科会長、分科会幹事の指名

柴田(碧)委員の分科会長任期(2年、2期)の平成 17 年 3 月満了に伴い、規約に基づき分科会長選任の手続きを実施した。分科会長候補として、柴田(碧)委員の推薦が市橋委員より出され、他に推薦がないことを確認した後、書面による投票手続きを行った結果、賛成 29 票、無効 3 票で、過半数以上の賛成により柴田(碧)委員が改めて分科会長に選任された。

その後、柴田分科会長より副分科会長として原委員と久保委員の 2 名が、また分科会幹事として白井委員が指名された。

(4) 耐震設計分科会委員変更の紹介

資料 No.10-2 に基づき、事務局より耐震設計分科会各検討会における委員変更及び委員任期更新の提案が紹介され、反対意見なく了承された。変更内容は以下のとおり。(任期更新に関する記述は省略)

(地震・地震動検討会)

佐藤氏(新任)(電中研)

(土木構造物検討会)

松蔭委員(退任) → 川本氏(新任)(中国電力)

高橋委員(退任) → 大内氏(新任)(四国電力)

(建物・構築物検討会)

齊藤委員 (退任) → 藤田氏 (新任)(北海道電力)

三代委員 (退任) → 河野氏 (新任)(中国電力)

野田委員 (退任) → 西村氏 (新任)(東京電力)

鶴巻委員 (退任)(鹿島建設)

(機器・配管系検討会)

設楽委員 (退任) → 波木井氏 (新任)(東京電力)

鞍本委員 (退任) → 岩田氏 (新任)(電源開発)

植田氏 (新任)(日本原電)

(5) JEAG4618 鋼板コンクリート構造耐震設計技術指針 建物・構築物編 (案) の審議

JEAG4618 鋼板コンクリート構造耐震設計技術指針 建物・構築物編 (案)(以下、SC 指針案) の公衆審査意見対応案について、資料 No.10-3-1, 2 に基づき、尾崎氏 (建物・構築物検討会) より、説明が行われ、特に反対意見なく了承された。

本件は、6 月 22 日 (水) 開催予定の第 19 回原子力規格委員会に上程予定であり、了承され次第、成案となる予定である旨が紹介された。

(6) JEAG4601 改定案の紹介について

資料 No.10-4-1 ~ 6 及び回覧資料に基づき、遠藤分科会幹事及び各検討会幹事より、JEAG4601 改定案の全体、及び検討会毎の改定方針とそれに基づく現時点での改定原案が紹介された。本日の審議を経て今後必要な調整及び改定検討を順次進めていく予定。本件に関する主な意見は以下のとおり。

a . 全体方針として、本文・本文添付と記述を整理することとされているが、各検討会での合意事項か。本文と本文添付の位置付けが異なるものか。

→ 設計上の要求事項を全て本文に記載すると、そのボリュームが非常に多くなるものがあるため、規格の構成上のバランスを考慮して提案するもの。今後、各検討会での合意に向けて調整を行いたい。

b . 規格改定案の試用期間という STEP を設定できないところがあるため、実設計者へのレビューを適宜行いながら、改定作業を継続した方がよい。

(7) 今後の方針の検討

題記に先立ち、事務局より参考資料 - 2 に基づき、原子力安全・保安院における原子力発電設備の技術基準 (省令 62 号) の性能規定化とそれに伴う民間規格活用方針の紹介として、JEAG4601 三版がその対象とされ、今後引用が行われる予定である旨の説明があった。その後、柴田分科会長より、現時点での JEAG4601 に関する改定作業に関する問題点として以下の 2 項目が紹介された。

a . 参考資料 - 2 のとおり、JEAG4601 は技術基準の性能規定化に伴い活用される規格として位置付けられている。JEAG4601 の内容である地震動、土木関連の章の記載内容は土木学会で検討され、出版・講習会事業まで行われているものであり、土木学会で規格化さ

れるべきとの意見もあるが、土木学会では公平性や公正性、公開性を重視した規格策定プロセスが確立されていないため、その成果を JEAG4601 として規格化するという方針が土木構造物検討会の衣笠主査他関係者間で共有されている。その場合、公衆審査意見対応の審議段階で、現在の原子力安全委員会 耐震指針検討分科会で行われているような学術的な論争への対応が当分科会に求められることとなることが懸念される。

b .地震の調査研究に関する政府機関として、地震調査研究推進本部と中央防災会議が活動を行っているが、活動分野の一部が重複し、異なる見解を示すところも見受けられる。JEAG4601 改定案の作成にあたり、両者のうちどちらかの見解を選択するようなケースが生じた際には判断が難しいことが想定される。

また、前回分科会で提案された JEAG4601 における電気品関連の章の目次検討 WG 設置については、現在 WG 発足のための準備検討を事業者主体で実施中であり、今後考えられる課題を短期・中期・長期に分類するなど必要な検討項目を整理した後、WG として活動開始を予定している、との説明が遠藤委員より行われた。

(8) その他

次回分科会開催日は、審議案件である JEAG4601 改定案の検討作業の進捗状況により、改めて調整することとなった。

以 上